

文芸 おまえざき

俳句 はまおか俳句会

水張田に草食む山羊の影動く
 蒲公英を握り幼子眠りをり
 独り身の山小屋住まい花馬酔木
 春風のように過ぎゆく齡かな
 望郷の掌よりこぼるる笹ちまき
 春の日に地震の見舞いをかけくるる
 芍薬やみどりの庭に燦然と
 病院の中庭に並ぶ土筆かな
 正座して心経を写す春の朝
 夏草や胡瓜の蔓に掴まれて

河原崎豊子
 長嶋常子
 清水正恵
 坂野操

短歌 はまおか短歌会

未曾有の大震災の映像に釘付けとなり震え止まらず
 追い打ちをかけるが如く原発事故避難者移動の群れに雪降る
 一瞬の間に家車流れ大津波の映像を揺るる茶の間にて見る
 原発を中止すと聞きて喜びしも働く人の苦悩を知りぬ
 絵のような「浄土ヶ浜」を訪ひし日の二十年前が夢となりしか
 充分に生きこし吾が一人居の地震の揺れに又もおびゆる
 人々の営みありし十日前の街は無残に様も形なし
 晩年の母が奏でし琴の音の録音テープに耳を傾むく
 地震の後平凡の日々愛しくラジオ聞きつつ大根刻む
 原発の止まりし建屋に続く浜浜昼顔のそよりと揺れり

河原崎豊子
 清水正恵
 山下てる子
 長嶋常子
 増田久江

Books

図書館情報

PICK_01 一般

蛙鳴



莫言 / 中央公論新社

墮せば命の希望が消える。産めば世界が必ず飢える…。神の手と敬われた産婦人科医の伯母。「一人っ子政策」推進の責任者に任せられるや、一転、悪魔の手と怨嗟の的に。正しさとは何なのか。アジアで一番ノーベル賞に近い作家、莫言が現代中国根源の禁忌に挑む。

PICK_02 子ども用

カエルの目だま



日高敏隆 / 福音館書店

カエルにギンヤンマにミズスマシ、誰の目玉が一番か。目玉自慢の結末は…。生き物にはそれぞれに適した目を持っているということがじわっと伝わる、温かい歌物語。日本の動物行動学の第一人者、日高敏隆が60年前、学生のころに書き下ろした作品です。

今月の新着図書

●一般

- 不謹慎を笑え (著者/鴻上尚史)
- しょうがない人 (著者/平安寿子)
- マジナル (著者/田口ランディ)
- 神の左手 (著者/ポール・ホフマン)
- トッカンVS勤労商工会 (著者/高殿円)
- 曲がる腰にもワケがある (著者/井尻慎一郎)
- 日本各地の味を楽しむ食の地図 (著作/帝国書院編集部)
- 職場であなたを困らせる病的性格者たち (著者/山脇由貴子)
- ラーメン・つけめんタレの技術教本 (編者/旭屋出版編集部)

●子ども

- イタチとみずがみさま (作/内田麟太郎)
 - あの日、ブルームーンに。(著者/宮下恵菜)
 - ぶたときまぐれきのこ (作/ユリア・ヴォリ)
 - 鬼のかいぎー新・今昔物語絵本 (文/立松和平)
 - なっちゃんときげんのわるいおおかみ (文/香坂直)
 - しりとり佐助②幽丹齋せんせいでし (作/梶尾真治)
 - へびとトカゲきょうからともだち (作/ジョイ・カウリー)
 - ミス・カナのゴーストログ①すずかけ屋敷のふたご (作/斉藤洋)
 - スカーレット-わるいのはいつもわたし? (作/キャシー・キャシディー)
- ※この他にもたくさんのが、図書館入っています。